

# こまざわ経済通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1



## 学部長挨拶

# オンライン授業の今後の方針

森田 佳宏(教授、会計監査論担当、2001年着任)

昨年度は、この場をお借りし、「オンライン授業と大学の役割」と題して、コロナ禍におけるオンライン授業への取り組みの一端をご紹介させていただきました。大学教育は、いうまでもなく授業を通じて行われるわけですが、授業内容もさることながら、それをどのような形態で実施するかは、教育効果の点で大きな意味を持つことから、今回は、オンライン授業の恒常的活用について、本学ではどのような検討が進められているかにつき簡潔にお伝えしたいと思います。

本学ではこの4月から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、授業実施形態が変更になる場合があることを前提としながらも、1年の全期間において、すべての授業科目を対面主体の形式で実施することとしています。対面主体というのは、半期科目でいえば15回のうち7回まで(通年科目は、原則として前期、後期それぞれ7回まで)はオンラインで授業を実施することも可能とされているためです。半期に7回を超えてオンラインで授業を行う科目を本学ではオンライン科目と称しており、オンライン授業の恒常的活用とは、対面主体の授業におけるオンライン授業やオンライン科目を、今後、どのように実施・設置していくかということになります。

本学では、オンライン科目の開始を令和6年度とし、開始に向けて学内設備やサポート体制を充実させるとともに、継続的にオンライン授業の教育効果等を評価し、開始当初はスモールスタートとして、拡充を希望する学部等については様子を見ながらオンライン科目を増やしていく方針をとることとしています。なお、どの授業科目をオンライン科目とするかは、学部等の裁量に委ねられていますので、本学部におきましても、教授会での審議等を通じて慎重に検討してまいります。

また、大学全体として、オンライン授業やオンライン科目についての基本的な認識を共有し、適正な形でオンライン授業を実施することを目的として、「オンライン授業の実施に関するガイドライン」を制定することを検討しています。このガイドラインの内容としては、例えば、オンライン授業の方法を(1)同時双方向型(設定された授業時間にインターネット等を用いて同時双方向の配信を主体とした授業を行う形態)と(2)オンデマンド型(授業を受けるために必要な動画、資料、課題など全ての教材を、授業支援システムなどを利用して配信・配布、教員が指定した期間内において学生が任意の時間・場所で受講、そして主に学習支援システムを通じて教員と学生の双方向のやり取りを行う形態)の2つとすることや、オンライン授業であっても、学生からの相談に速やかに応じる体制を確保すべきことなどが盛り込まれる予定です。

社会を取り巻く環境が刻々と変化し、先が見通しにくい状況の中で、大学の授業のあり方も次の段階へステップアップする時機を迎えています。本学も、そうした変化に機敏に対応すべく、教育環境の更なる改善に取り組んでまいります。同窓生の皆様には、これまでにも増して、本学・本学部の活動にご理解、ご支援のほどを賜りますようお願い申し上げます。

# 遠藤孝先生と悼む



小栗 崇 資 (駒澤大学名誉教授)

2022年4月20日(木)に名誉教授の遠藤孝先生がお亡くなりになりました。享年91歳でした。私は1ヵ月少し前に先生と電話をした矢先だったので、突然の訃報に大変驚きました。お電話の時はお元気そうで、コロナ禍が収まったら、私が出版した本の感想もお聞きしがてら、是非会いましょうと約束をしたばかりでした。

葬儀の際に伺ったご家族のお話では、ちょうど1か月前に全身に癌が回っていることが判明しその後ホスピスに入られたということでした。それでも直前まではしっかりしており、亡くなられたのは入院数日後のあっという間のことだったようです。亡くなる直前には筆談でご自分の葬儀のことや死後の整理等のことを伝えられ、しばらくして眠るようにお亡くなりになったということでした。

4月22日(金)の午後2時から西教寺(文京区)でご葬儀が執り行われました。喪主はご長男の遠藤孝一様で、先生ご自身の希望もあって家族葬となりました。ご親族10名と親族外では大学関係2名(新谷、小栗)と先生の高校講師時代の教え子1名の計13名の参列者でした。告別式に続き東京の町屋斎場で火葬された後、先生は鰻が大好きだったということで、上野の「伊豆栄」(300年続く鰻割烹)でのお清めの会食となりました。ご親族は研究者としての先生をあまりご存知ないこともあって、日本福祉大学の新谷司先生(遠藤先生の駒澤大学大学院の教え子)と私は、先生の学会での功績、教育者としてのお人柄について話させていただきました。こうしたご葬儀を通じて、先生の大往生を見届けることができたことを有難く思います。

私は先生の直接の弟子ではありませんでしたが、明治大学大学院の院生時代から関東会計研究会などでご指導いただく関係でした。直接の指導教授は明治大学の山口孝先生でしたが、私にとって遠藤孝先生はもう1人の指導教授でした。2人の孝(たかし)先生に育てていただいたことに心から感謝しています。2019年末に山口先生が亡くなられ、続けて遠藤先生が亡くなられたことで、自分の土台が崩れ去ったような強い喪失感を覚えています。

遠藤先生については思い出が尽きません。一番の思い出は、大学院生時代の1986年に先生のもとで「会計理論学会」設立をお手伝いしたことです(創立大会は駒澤大学で開催)。大会では創立記念シンポジウムが催されましたが、4人の報告者の内の1人として先生は院生だった私を指名されました。それが研究者としての私のデビューとなりました。今でも先生が私を抜擢しご指導いただいたことに計り知れない学恩を感じています。それ以来、先生とは公私にわたりお付き合いをさせていただきました。2000年に駒澤大学経済学部で奉職することになり、先生の「財務会計論」の講座を引き継いだことは光栄以外の何物でもありません。先生の中には、常に尽きない学問的探究心と批判精神、ユーモア、アイロニーがあり、包容力がありました。人間的な魅力にあふれた先生ともうお話しできないことが残念でなりません。あらためて先生のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。

# 名誉教授シリーズ

## 「終活」つれづれ

齊藤 正



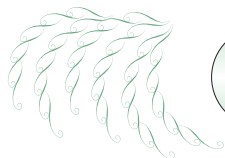
2021年3月末、定年退職しました。在職40年、無事務め上げることができたのも、学生諸君をはじめ、公私にわたってご交誼いただいていたすべての皆さまのおかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。退職後1年半、「終活」を念頭に日々を過ごしています。

「終活」を具体的に意識するようになった契機は、2014年秋に92歳の母を見送ったことでした。次は自分の順番、人生の残された期間に何ができるのか、あれこれ思い悩んだ結果、故郷の北海道に子どもたち支援をメインコンセプトとし、私が亡くなった後も活動を継続できる拠点を造ることを計画しました。積み残してきた研究を深掘りすることも考えましたが、本学の再建に忙殺された副学長時代(2009年4月～2013年3月)の研究の空白は大きく、私の能力では退任後その穴を埋めるだけで精一杯で、さらなる深掘りは到底見込めないと考えたからです。ただ、専門としてきた、地域・中小企業・協同金融研究を通じて得られた知見を、少子化を伴い、深刻化の一途を辿る地域社会に一人の住民として生かせるのではないかと考えました。こうして、定年後、本格的に活動できるよう、知人を通じて紹介された設計士さんと何度も相談しながら、2016年秋、出生地とは違いますが、胆振管内の伊達市郊外の南稀府(まれっふ)に小さな家を建てました。

以来、退職までの4年半、折を見て北海道に通いながら、少しずつ当地の情報収集と人脈づくりを進めてきましたが、私の目論見はコロナ禍によって大きく狂われました。とくに、在職最終年度の2020年度はオンライン授業の対応に全精力を注がざるをえず、反面、研究の仕上げは滞り、「終活」もほとんど進めることができませんでした。

この状況は現在も変わらず、東京との二重生活のなかで、地域の環境ボランティア活動への参加やこども食堂の見学などを通じて散発的に情報を集め、自分の課題を見つめ直すくらいのことしかできていません。パン屋さんやカフェを開業するために南稀府に移住してきた人たちも居ますが、空き家や空き地も目につきます。この3年のうちに、近隣の小学校が2校100年以上の歴史に幕を閉じましたし、徒歩圏内にある高校も来年3月いっばいで中心部の高校に統合されることが決まっています。こうした現実を前に、具体的に行動に移せないことに忸怩たる思いを抱えています。感染するリスクも感染させるリスクも避けようとするれば、地域の人々との繋がりを広げること躊躇せざるをえないからです。

なお、伊達市の家は、恩返しの意も込め、お世話になった方々が北海道を訪れる際の滞在拠点として利用していただくことを、「終活」のもう一つのコンセプトとして設計していただきました。コロナ禍が収束し、安心して皆さまをお迎えし、伊達市の魅力に触れていただける日が早く来ることを、「心の伊達市民」の一員として切に願っています。



## 研究室訪問シリーズ



中西 大輔  
(准教授、マクロ・マーケティング  
担当、2019年着任)

同窓会の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
新しい元号が発表された2019年4月1日より、新設科目である「マクロ・マーケティング」の担当者として、経済学部商学科に着任いたしました。

「顧客の欲求を満たすために企業が行うあらゆる活動の総称」である「マーケティング」は、もはや一般的になっており、経済学部や経営学部、あるいは商学部を設置する大学であれば、まず間違いなく開講されている科目です。それに対し、「マクロ・マーケティング」を開講している大学は全国的にも珍しく、本学部を含めて2～3校程度であると思います。

マクロ・マーケティングとは、企業のマーケティングと社会経済的な環境との関係を総合的に捉える理論的枠組みのことをいいます。企業が大規模化するにつれて、マーケティングが社会に及ぼす影響は大きなものになっています。例えば、まだ十分に使える製品を捨てさせて新しい製品を買うように仕向けることで、物を大切にするという文化を破壊しているかもしれません。世界中どこでもマクドナルドやコカ・コーラが消費されるように仕向け、消費文化の標準化・アメリカ化を推し進め、各国・各民族の個性的な文化が軽んじられるようになってきているかもしれません。こうした企業のマーケティングに対し、社会的制裁として、規制がなされたり、ボイコットや反ブランド運動などが行われたりもします。このようなマーケティングと社会経済的な環境との相互関係を批判的に考え、現代マーケティングに随伴する社会問題を理解し、その解消に向けて主体的活動を実践する力を培うことが、私の担当科目であるマクロ・マーケティングの課題であり目的です。

マーケティングがもたらす社会問題についての議論は、世界の中でも特に日本のマーケティング学界において、かつて活発に行われていました。しかし、「マクロ・マーケティング」の開講状況を見ても分かるように、今日のマーケティング論に批判的精神は求められていないようです。

それでよいのでしょうか。マーケティングの一般的な理解に終始し、それに疑問を投げかけることなくして、どうして新しいものを創造するマーケットになれるのでしょうか。創造に批判的視点を欠かすことはできません。そもそも検討対象への批判的精神を持たない分析は、それ自体、学問研究ではあり得ません。

本学部が全国的にも珍しい「マクロ・マーケティング」を元号の変わり目に新設することを知ったとき、「さすがは駒澤経済」と思いました。同時に、その担当者として採用されることを強く願いました。その願いが叶って3年以上が経過しますが、今なお幸せとともに、責任の重さを感じています。学問研究としてのマーケティング論に触れることが優れたマーケットになるための唯一の途である、このことを銘記して、マーケティング教育に当たって参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 経済学部総合球技大会を実施して

経済学部ゼミナール連合 勝間田汐里(現代応用経済学科3年)

野本彩華(現代応用経済学科3年)

2022年6月11日に経済学部ゼミナール連合主催の総合球技大会を玉川キャンパスで開催しました。経済学部ゼミナール連合は、経済学部のゼミ間の交流を深めるためにイベントの企画や運営を行っております。これまで、コロナの影響で対面での大学生活やイベントができなかった3年生を中心に運営をしているため、非常に力が入っており、幹部のメンバーを中心に日々話し合いや準備を進めています。

球技大会には19ゼミの420名ほどの学生が参加し、コロナ禍となってから初めてのゼミナール連合のイベントとして、とても楽しく過ごすことができました。参加者のほとんども、入学後、大学には通わずにオンライン授業を受け、学生同士のコミュニティが少ないまま大学生活を送っていました。なので同じ学部の人々と対面でイベントが開催できること自体に感謝とうれしい気持ちでいっぱいでした。当日、バスケットボールとフットサルの2つの競技を行い、ゼミ内での仲を深めるだけではなく、ほかのゼミとも交流することができる貴重な機会となりました。



3年ぶりの開催で複数競技を行うのも初めてだったため、今までの運営マニュアルや計画書に頼らず、一から幹部のメンバーで計画をしました。何度も玉川キャンパスの体育館やグラウンドに視察へ行き、何の競技を行うかを決めるところから始めました。私たちの想定よりも登録人数が多かったため、各ゼミへのアナウンスや当日の競技スケジュールの調整

に一番苦労しましたが、幹部メンバーとこまめに会議を行い、コミュニケーションを多くとることを心掛けながら綿密に計画を立てました。こうした準備もあり、当日はスケジュール通り大きな混乱もなく大会を進めることに成功しました。また、経済学部同窓会様からご支援をいただき、備品の購入に加えて、優勝ゼミにはハーゲンダッツの商品券をプレゼントすることができました。この優勝賞品によって、より生徒の対抗心に火がつき球技大会全体を盛り上げることに繋がりました。心より感謝申し上げます。私たち自身も、学年を超え、ゼミ間で仲を深め、和気あいあいと競技を楽しんでいる姿を見て、達成感がありました。

今夏はオープンキャンパスにおいて高校生への学校紹介を行い、また秋には新しくゼミに入る1年生を対象としたゼミ説明会、ゼミ内での研究を発表する学生シンポジウムを開催予定です。これらのイベントを通して学生間の交流を増やし、楽しみながら学びが深まるように努力していきたいと思っております。



## 新図書館建設事業基金へ寄付

大学創立140周年事業の新図書館建設に10万円を寄付することが役員会で了承されました。

2022年7月11日、学長室で贈呈式がおこなわれ、大場やすのぶ経済学部同窓会長から各務洋子学長に目録が手渡されました。

新図書館は正門を入れて右側(大学会館跡地)に建設され、本年10月に落成予定。地上6階、地下3階、建物中央に書架を集中配架した構造で、上層階に行くほどに学びの専門性が高まる「フロアゾーニング」を採用。本・資料とデジタル情報を一体的に使用した多様な学修スタイルに対応する新しい時代の図書館です。

駒澤大学の教育研究の一層の発展に寄与すると期待されます。

なお、経済学部同窓会は寄付団体として寄付者銘板に記載されます。



### ● 駒大生社会連携プロジェクトに経済学部の学生も参加

2022年度より駒澤大学では、「駒大生社会連携プロジェクト」が開始されました。本プロジェクトは、大学における社会連携・地域貢献にかかわるさまざまな教職員と学生の活動への支援を目的とした学内公募型助成となっています。

経済学部からは、①【動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト】(担当:経済学部教授 松本典子)、②【PBL型授業のモデル構築 一世田谷発の起業家教育】(担当:経済学部教授 長山宗広)、③【産学連携による新商品開発と新たな販路開拓の実践プロジェクト～地場産業の新商品開発と中小企業の海外販路開拓の事例～】(担当:経済学部教授 吉田健太郎)、④【社会連携ゼミ交流会】(担当:経済学部准教授 大前智文)⑤【現応ラボ 社会連携・SDGs交流会】(担当:経済学部教授 山田雅俊)の5つが採択されました。

プロジェクトの進捗状況は大学ホームページにおいて随時更新中です。写真はSDGs交流会の様子です。

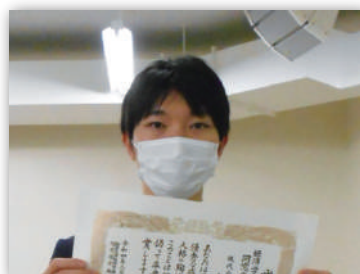


## 経済学部同窓会長賞の受賞者

2021年度卒業式は、2022年3月23日におこなわれました。経済学科382名、商学科221名、現代応用経済学科170名、合計773名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品(U S Bメモリ)を授与しました。受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

|           |       |       |       |
|-----------|-------|-------|-------|
| 経済学科：     | 岡 美咲希 | 高 学涵  | 山下 翔馬 |
| 商学科：      | 菅生 大輔 | 立花 李夏 | 真田 優衣 |
| 現代応用経済学科： | 市川 将崇 | 中根 透輝 | 吉崎 賢哉 |



## 2021年度 駒澤大学経済学部学生奨学論文について

経済学部の学生の日頃の研究成果を表彰する「学生奨学論文」制度は、2021年度で第10回を迎えました。2021年度の受賞者と論文タイトルは下記の通りです。

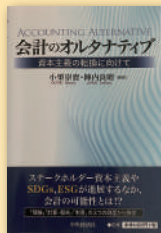
### 【審査結果】

1. 特選 該当なし
2. 入選(1編) 小杉 恵介「新型コロナウイルス禍における消費支出の変化及びマクロ経済モデルを用いた実証分析」
3. 佳作(7編)
  - ①山本 涼大「経済成長と豊かさに関する検証」
  - ②丸山 佳希・増本 寧々・本間 弘輝・尾崎 遥香「海外小売企業の撤退から考える日本市場の『特殊性』」
  - ③若杉 晃汰・澤井 翼・小野 真果・河野 誠「リアルとデジタルを融合させた中小企業支援ー協同組織金融機関と自治体によるDX推進を活かしてー」
  - ④藤本 拓馬・戸石 悠大・滝澤 凌太・武本 奈央「多様化する食品配達ー合理化と原点回帰ー」
  - ⑤佐藤 晴斗・山口 慎一・中太 いよ・中村 菜摘「インターネット社会がもたらした消費の変化とコロナ禍において顕在化したその問題点」
  - ⑥石丸 蒼也「ロヒンギヤを取り残さない 問題の本質は貧困なのか」
  - ⑦田盛 友基・青野 広暉「駒澤大学生のコロナ下の不安・自粛政策の評価・将来ビジョンー駒澤大学生の学生生活に関する調査報告2020ー」

## 新 著 紹 介

経済学部教員が下記の本の出版に携わりました。ぜひお手に取っていただけますと幸いです。

＊小栗崇資・陣内良昭編著『会計のオルタナティブー資本主義の転換に向けて』  
中央経済社、2022年3月。



➡本書では、小栗崇資名誉教授が、序章「資本主義の変化と会計」、第1章「会計理論の新たな展開」、第2章「株式会社の構造と会計のオルタナティブ」、第5章「新たな計算と報告の可能性」、第12章「会計制度の新たな展開」を執筆（序章、第1章、第5章、第12章は陣内良昭氏との共同執筆）、高野学教授が、第8章「新たな付加価値計算書と原価計算」を執筆しています。

## 同窓会事務局からのお知らせ

### ＊同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

### ＊「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。  
積極的なご投稿をお願いいたします。

- ・論 題：自由
- ・字 数：800字以内
- ・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）  
原稿の採否は事務局にご一任ください。

### ＊役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。

軽い仕事なのでご負担になることはありません。仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。

有志の方は事務局までご連絡ください。

### ＊facebookの公開グループにご参加ください

経済学部同窓会の公開グループ（<https://www.facebook.com/groups/komakei.obog/>）が活性化しています。同窓生の情報発信や情報交換の場としてご利用ください。

### ＊経済学部ホームページがリニューアルしました

経済学部と同窓会のホームページがリニューアルされました。ぜひアクセスしてみてください！

経済学部同窓会事務局（経済学部事務室内）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

電話：03-3418-9343

## 「第7回学生シンポジウム」にご参加を!!

2022年11月12日(土)10時～17時30分に学生シンポジウムが開催されます。随時、経済学部ホームページで詳細を発信中です。現役生の日頃の研究成果をご覧ください。

※現時点で駒沢キャンパス3号館での対面形式での開催を想定しておりますが、新型コロナの感染拡大状況によっては開催方法が変更になる可能性があります。経済学部ホームページをご確認ください。